令和5年度子どもの読書推進協議会における主な質問事項

資料番号7

	質問	回答
1	「子どもの読書活動推進計画」が『生涯学習・スポーツ推進計画』に計画が統合されたが、計画名称には『読書』という言葉はないのか。	『生涯学習・スポーツ推進計画』で、生涯学習やスポーツなど様ざまな項目の中に『読書』という項目が1つある。横断的に、生涯学習と読書、スポーツと読書が連携する等、分野をまたいで連携することで、よりそれぞれの施策の推進に繋げるために、ひとつの計画にまとめた。
2	コロナ禍ということで、電子書籍の取組みが社会でも話題にあがる中、公立図書館で始めた電子書籍の取組みについて、説明いただきたい。	令和3年4月に公立図書館にて電子図書館を導入、令和5年1月末時点のコンテンツ数が14,590点である。利用促進として、和泉・シティプラザ・北部リージョンセンター図書室の3館で、市民向けに体験会の実施。
3	学校図書館において、学校司書が配置され2年目になるが、各学校の司書の状況について、説明いただきたい。	平成12年度から有償ボランティアとして配置が始まり、令和3年度からは職員として配置。年に3回、連絡協議会を実施し研修と情報交換を行っている。新任司書向けに、月1回自主的な研修も実施。 1日あたり休憩30分含む5時間半勤務で、年間187日の勤務日数である。
4	コロナ禍にも関わらず、すくすくタイムの参加人数が増加しているが、すくすくタイムの事業内容はどのようなものなのか。	小さなお子さんと親御さんが気軽に図書館を利用できる開放時間として設定。（事前申込みは不要で、誰でも参加可能）自由に絵本コーナー等に来ていただいき、少しの音でも響いてしまう図書館で、お子さんの声を気にせず、一緒に本を読んだり、スタッフの読み聞かせ等も行っている。
5	市立図書館から市内小中校へ団体貸出しを行っているが、保育園・幼稚園への団体貸出は可能か。	保育園・幼稚園から依頼があれば、団体貸出は可能である。
6	和泉市中学校POPコンクールの応募数が増加しているが、どのような要因があったのか。 また、調べる学習コンクールのように、市で入選した作品が、府や国の大会に出場できるような仕組みはないのか。	夏休みの宿題などで、中学校全体で取り組んでいただいた学校もあり、応募数が大幅に増加した。 そのような仕組みではなく、市独自の取組みである。